

◎**熱帯の森林病害** 小林享夫著 A5版 166pp. (財) 国際緑化推進センター 1994刊 頒価 1,500円

苗畑から林地に至るまで、林木はいろいろな被害を受けるが、とくに熱帯では病虫害に悩まされることが多い。わが国最初の森林造成プロジェクトがスタートしてまもなく、早速に著者に短期専門家として協力していただいたことがある。几帳面な著者は、それに先立つ調査の結果も含めて、各種病害とそれらにたいする防除のマニュアルを作られたが、これは当時その国で大変重宝された。これをかわきりに、著者は多くの技術協力プロジェクトに貢献され、いろいろな形で成果を公表されたが、新装再刊されたばかりの本誌でも、苗畑を中心に10回にわたって解説されたことがある。本書は、これらの蓄積を改めて整理・集成されたもので、まず樹種共通の病害8種について述べたあと、マツ類、アガチス・アロウカリア、マメ科樹木、ユーカリ類、クマツヅラ科樹木、センダン科樹木の6群に分けてそれぞれのグループの病害をまとめ、最後にその他3種類の特徴的な病気について述べている。主要な病害は、診断の要点・病原菌・発生生態・発生樹種と分布・防除対策にわけて詳細に解説されている。巻末の病原体索引、宿主の和名・学名の索引も便利である。熱帯・亜熱帯で森林の造成・管理に携わるものにとって必携のハンドブックといえよう。

◎**熱帯果樹の病害** 田中寛康ほか11名共著 A5版 117pp. (社) 国際農林業協力協会 1994刊 頒価 3,000円

本書は当協会の熱帯農業シリーズ・熱帯農業要覧 No. 20 として刊行されたもので、12名の専門家たちが分担執筆されたものである。近年、技術協力の進展にともなって社会林業が脚光を浴びようになり、果樹を含めたいわゆる多目的樹種をとりあげることが多くなった。このため、それらの病害も熱帯林業の重要な課題となりつつある。本書は、熱帯および亜熱帯地域における重要な果樹とカンキツ、ブドウを対象に、病害の診断を容易にすることを主眼として編纂されている。樹種別の病気ごとに、病徴の鮮明な原色写真とそれらの解説が見開きで印刷されており、そのために解説が精粗まちまちになったと断わり書きされているが、大変見やすく、また何よりもとつきやすい。病徴・病原・生態と防除の3項に分けて解説されている。技術協力に参加される方々には、「熱帯の森林病害」と併せて座右におくことを勧めたい。(浅川澄彦)